

【人文科学】

中華人民共和国の歴史に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 中国はソ連をモデルとして国家建設を進め、ソ連から援助を受けたり、国際社会で共同歩調を取ったりするなど、建国時からソ連が崩壊するまで、ソ連との親密な関係を維持した。
2. 中央の民族政策への反発から、チベットでは1950年代に反中国暴動が起きた。これは軍隊によって鎮圧され、チベット仏教の指導者のダライ＝ラマは亡命を余儀なくされた。
3. 内戦に敗れて台湾に移った中華民国に加えて、1970年代には中華人民共和国も国連に加盟した。これを契機に日米は台湾政府と北京政府の両政府と外交関係を持つようになり、国際的に「二つの中国」が認められるようになった。
4. 毛沢東の死後、鄧小平が実権を握り、経済の開放・自由化に努めた。しかし、1980年代末に北京の天安門広場に集まり民主化を要求した学生・市民を鎮静化できず失脚に追い込まれた。
5. 1990年代に香港がイギリスから中国に返還された。返還後、中国政府は香港の自治権を認めず、中国国内の他の地域と同様の社会制度に香港を組み込むことを強行した。

[正答 2]